チョウ紙芝居で高取山活性化

10月に飛来 アサギマダラ解説



「ビューンビューン！　風に乗れ、波にも乗れ」――。「旅するチョウ」と呼ばれるアサギマダラが飛来する神戸市長田区の高取山の魅力を知ってもらい、地域の活性化に役立てようと、チョウ愛好家らが、アサギマダラの生態をわかりやすく紹介する紙芝居を制作した。列島を旅する生涯を、講談調の語り口で演じる内容で、高取山に飛来する10月には、地元の小学校やイベントなどで披露する。（行成靖司）

アサギマダラは、あさぎ色に、まだら模様の入った羽が特徴の大型のチョウ。春から夏にかけて日本列島を北上し、秋に南下する習性がある。高取山には毎年10月頃に訪れる。

紙芝居は、「海を渡るチョウ!!アサギマダラ」（A3判、14枚構成）。高取山近くに住む環境省環境カウンセラーの橋本敏明さん（75）と県自然保護指導員の石川喬朗さん（68）（神戸市須磨区）、地域の活動を紙芝居で紹介している創作講談師おとぎ亭はなさん（70）（同市兵庫区）が制作した。

橋本さんは、六甲山系のチョウを紹介する展示会を開いているほか、地元でチョウの好む草花を植えたり、小学校で環境学習を行ったり、チョウとふれあう活動を進めている。今年4月に石川さんらと「高取山にアサギマダラを招こう会」を結成。空き地にアサギマダラが好むフジバカマを植えるなど環境作りにも取り組む。

はなさんは、地域交流イベントで橋本さんらの活動を知り、紙芝居づくりを提案した。アサギマダラの生態について、橋本さんらから学びながらストーリーを練り上げ、イラストはAI（人工知能）を活用。何度も修整を重ね、5か月で完成させた。

生まれたばかりの幼虫からさなぎ、成虫へと成長していく過程を、渡りのルートとともに解説。春から夏に台湾や沖縄から旅立った後、中部、東北地方の山や高原で過ごし、そこで生まれた子らが南の島に戻って冬を越し、再び北へと向かう姿を描いている。高取山周辺の飛行やフジバカマの植栽など地元での様子も盛り込んだ。

メンバーは、10月の上演に向け稽古にも熱がこもる。講談調の語りをはなさんが指導、臨場感にあふれた舞台作りを目指している。はなさんは「チョウが海を渡るなんてすごい。子どもたちにロマンと勇気を伝えたい」と期待する。

長田区内の小学校で環境体験学習の一環として上演するほか、10月22日に灘区文化センターで開く、アサギマダラに関する講座でも披露。11月3日には、高取山にある月見茶屋で、パネル展示と実演をする予定だ。橋本さんは「地元の自然の豊かさと命の大切さを知ってもらい、これを機会に高取山にも登ってほしい」と話している。





紙芝居のアサギマダラが海を渡るシーン

神戸の愛好家ら 講談調で披露へ

❷アサギマダラが高取山を飛行する姿を描いた紙芝居（橋本さん提供）
❸10月の披露に向け稽古に励むメンバーら（神戸市長田区で）